

学校生活をよくするために

全校生徒で週目標を考える

翌 檜 新 聞



志 寛 錬

第6号
2021.8.2
第75代
伊敷中生徒会



自分の意見を発表するため立ち上がる三年生

指名なし発表活発に

6月22日(火)の全校朝会は、全校生徒で週目標について考える話し合いをしました。一、三年生は体育館で、二年生は各教室で、指名なし発表により自分の意見を発表しました。体育館では、発表が始まると、まず三年生が率先して意見を言い、それに一年生も続きました。

この話し合いをするきっかけとなったのは、生徒の週目標に対する意識が低くなっ

ていることや週目標の内容が固定化されてきたことが課題としてあげられたからです。みんなで週目標について考える時間をもつことで、週目標に対する意識が高まってほしいと考えました。

発表をした時間は、10分程度ではありませんでしたが、学校生活の中で、課題だと感じていることやみんなまで意識したいと思うことなど、たくさん意見を聞くことができてきました。みなさんから出た意見はこれからの生徒会活動に生かしていきたいと

▼週目標：各班が様々な目標をあげているが、週番の専門班に関わる活動を週目標として取り上げる。その週は全校生徒、全職員で達成率100%をめざして活動するもの。
▼指名なし発表：自らの意見を次々と発表していく形式。指名を待たずに発表するため、短時間でたくさんの意見を発表することができる。

思います。

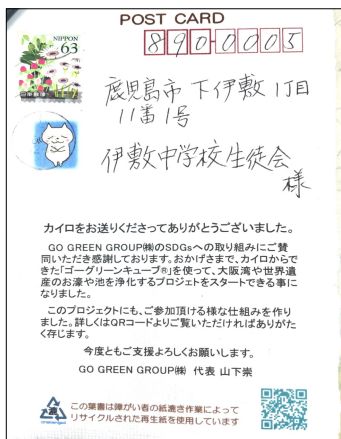
また、今回、全校生徒で指名なし発表を行いました。これまで、生徒総会の中でも指名なし発表が行われてきましたが、コロナ禍のため、二年間全校生徒による話し合いができていません。今回の週目標に対する指名なし発表は、これからの生徒会活動につながるものになったのではないかと思います。(皆倉 甫洸)

わたしたちがとびこめることを

海の環境を守るために集めたカイロ

前年度、SDGsの取組として使用済みカイロの回収を行いました。全校生徒、

先生方の協力により、最終的に600個を超える使用済みカイロが集まりました。ご協力ありがとうございました。



カイロは無事に兵庫県のGo Green物流センターへ送り届けられ、お礼のハガキが伊敷中に届きました。送られたカイロはGo Green Cubeへと加工され、海の水を綺麗にしてくれま

苦しいから逃げるのではない。逃げるから苦しくなるのだ。
ウィリアム・ジュームズ

黒板のことば

苦しいから逃げるのではない。逃げるから苦しくなるのだ。ウィリアム・ジュームズ。苦しいから逃げるのではない。逃げるから苦しくなるのだ。ウィリアム・ジュームズ。苦しいから逃げるのではない。逃げるから苦しくなるのだ。ウィリアム・ジュームズ。

(釘田結月)

気付き作業を広めよう

毎日朝作業と昼作業がありますが、気付き作業をすることができていますか。気付き作業として取り組んでほしいことの一つに扉のレール掃除があります。

見落とされがちですが、レールはゴミのたまりやすい部分です。教室掃除係が担当になると思いますが、10分間の昼作業ではできない場合、朝作業担当の人が取り組むようにしてみよう。気付き作業を通して、細かい部分まで気付き力を付けていきましょう。(末永蓮)



レールの掃除をする伊敷中生

生徒会の窓

今年も8月がやってきました。8月は広島、長崎の原爆の日、終戦記念日と戦争に関わる日が多くあります。私たちが平和について考える必要があるのではないのでしょうか。

昨年の文化祭で、二年生は「ちらんく昔の若者から今の若者へ」という学年劇をしました。それは、特攻隊員と彼らを支えた鳥濱トメさんのお話でした。何よりも心に残っているのは全体合唱の歌詞です。「彼らは聴く今の僕らに日本は幸せか平和なのか。彼らは聴く今の私に本気で生きてほしいことの一つに扉のレール掃除があります。見落とされがちですが、レールはゴミのたまりやすい部分です。教室掃除係が担当になると思いますが、10分間の昼作業ではできない場合、朝作業担当の人が取り組むようにしてみよう。気付き作業を通して、細かい部分まで気付き力を付けていきましょう。(末永蓮)

また、今年7月には、トメさんの意思を継ぎ、特攻隊員たちの思い、平和の尊さを語り継いでいたお孫さんの鳥濱明久さんが亡くなられました。戦争の悲惨さを直接体験した人やその人たちに接してきた人たちは高齢となっています。戦争の悲惨さや平和の大切さはその人たちが亡くなっても語り継いでいかなければなりません。今を生きる私たちは過去から学ぶ必要があります。私は8月を平和とは何かを考える月に使いたいと思います。(町田歩未)

お礼のハガキ

(皆倉甫洸)

特集 戦争と平和を考える

鹿児島大空襲

まもなく8月15日がやってきます。8月15日は第二次世界大戦終結の日とされています。日本だけでなく、その他の国にも大きな被害をもたらした戦争。今回は鹿児島大空襲を取り上げます。

当時、鹿児島は、本土最南端にあつたため、南方への攻撃や防衛に備えて飛行場が次々に建設されていきました。しかし、これらはアメリカ軍が日本に近付くにつれて次第に特攻基地へと変わっていきましました。その代表的なものが知覧の特攻基地です。1945年になると県本土へのアメリカ軍による空襲が開始され終戦の日までひっきりなしに続けられたそうです。特に私たちの住んでいる鹿児島市は8回の大空襲を受け、焼

け野原となりました。現在の鹿児島市は海岸までの障害物がなくなり海が見えるほどだったそうです。昨年6月、旧島津氏玉里邸長屋門の歴史資料室で、鹿児島市立女子興業学校(現・鹿児島女子高校)の戦時中の「教務日誌」が見つかったそうです。鹿児島女子興業学校では、1945年6月17日の鹿児島大空襲で生徒13人が犠牲になっています。日誌には校舎が激しく炎上する様や、亡くなった生徒の火葬をしたこと等



空襲後の鹿児島市の様子(総務省HPより)

が記録されていたそうです。今、日本は戦争をしていませんが、世界では戦争が行われている地域も少なくありません。なぜ戦争はなくなるのでしょうか。

戦争は何かを生むものではなく奪うものだと思います。8月15日は戦争で犠牲になった方々のために黙祷を捧げるとともに平和について考えて決められた瞬間はコート内もベンチもみんなが喜びに包まれました。

未来を創る選挙

えていけたらと思います。(馬場口彩音)

有権者の一人として

「政治」と言われて何を考えますか。自分たちの身近なことで考えると、学校でどのようなことを学ぶかということも政治に関わることの一つです。政治とは、国家や社会のルールを作ることで、社会の秩序を維持し統合を図ることです。現代の日本では、選挙を通じて選ばれた議員や政党が議論し様々なことを決定していきます。有権者である私たちは、議員や政党を選びます。そう考えると、選挙とは、政治に参加する一つの手段と言えるわけです。練習を大切に力を付けていってほしいです。

県大会でも全力を尽くしたバレー部。これからの活動も頑張ってください。(末永 蓮)

FACE

男子バレーボール部キャプテン 取違拓朗さん



今回のFACEは市郡総体でベスト4になった男子バレーボール部のキャプテン、取違拓朗さんです。



Q1 市郡総体で印象に残っていることは。

A1 県総体をかけた試合が印象に残っています。お互いに1セットずつとったファイナルセット。互角の戦いに全員がとても緊張していました。勝負

Q2 キャプテンとして心掛けたことは。
A2 日常生活をしっかりすることをチームには呼び掛けました。日常生活をしっかりすることが部活動に真剣に取り組むことにつながると思っています。
Q3 県大会の意気込み
A3 鹿児島市の代表として誇りをもってプレーしたいと思っています。
Q4 後輩たちへ伝えたいことは。
A4 指導してくださる先生方の話を聞いて、日々



SDGs

学校や部活動のときには、水筒を持参し、ペットボトルを飲みません!



伊敷中では、学校や部活動のときは、水筒を持参することになっています。これはペットボトルのゴミを出さないことに貢献しています。様々なものを使う選択をするとき、環境に配慮した選択をすることが使う者の責任です。「12 つくる責任 つかう責任」につながるものです。

ある調査によると「私個人の方では、政府の決定に影響を与えられない」という質問に対して、日本の高校生の約8割が「全くそう思う」「そう思う」と答えているそうです。このような状況から「若者は政治に関心が低く、選挙に行かない」と言われています。しかし、「社会や政治問題への参加についてどう思うか」という質問に対して「参加すべきだ」「参加した方がよい」と答えた高校生は7割を超えています。



学年専門班会等の話し合いに積極的に参加することも大事です。

有権者になるということ。選挙等を通じて政治の過程に参加する権利を得ることです。政治に参加しても必ずしも自分の意見が通るわけではありませんが、議員がみんなの意見を議論し合意された決定に対しては、構成員の一人として従うという義務が生じることになります。また、自分の意見が通るわけではないからといって、政治に参加するのをやめてしまうと、一部の人の考えだけに基づいて政治が行われることになりかねません。誰かに任せるとではなく、積極的に選挙を通じて、課題について考え、自分なりに判断していくことが大切なのだと思います。

これは、生徒会選挙でも同じです。みなさんは伊敷中生徒会の一員として伊敷中生徒会の中心となり運営する会長・副会長を選挙により選びます。でも、選んで終わりではなく、学校生活の課題について自分なりに考え、行動することが大事です。誰かがやってくれずにはよりよい生活は生まれません。自分で考え、自分で行動する。立候補するしないに関係なく、まずは自分はどうな生徒会の一員

編集後記

今回の習檜新聞は8月ということで戦争に関する特集を組みました。学びの多い夏休みになればと思います。さて、夏休みも10日が過ぎました。休みに夏休みをしたいことを聞いてみました。結果は次のとおり。一年生・・・外で遊ぶ・海やプールに行く・家でゲームをする
二年生・・・旅行に行く・家で過ごす・部活を頑張る
三年生・・・勉強・体を動かす・プールで遊ぶ
の計画通り過ごせていますか。三年生にとっては、受験のための大切な期間となります。「明日からやろう」を30回言ったら夏休みは終わります。時間を無駄にしないように残り夏休みも充実した日々を過ごしましょう。(武 大叶)

でありたいかを考えてみましょう。(峯古泰志)